

できることとやりたいこと

私が早稲田大学を志望校の一つとして考え始めたのは、高校二年生の夏だった。高校一年生の夏から一年間カナダに留学し、帰国後直ぐの夏休みから具体的に自分の進路を考え出した。進路を考え出す時期としては早くもないが遅くもないといったところだろう。一年間の高校留学を経て AO 入試を受験するという道を選んだ先輩たちを何人か見ていたので、留学

前からぼんやりと AO 入試を選択肢に入れていた。元から英語が好きだったが、私の英語に対する意識や考え方は留学を通して大きく変わった。様々なバックグラウンドを持つ人々と交流する中で、日本では気づけなかった英語の本質に気づかされたのだ。以前は、英語を話せるということは自分の将来に役立つ一つのスキルのように考えていた。しかし、「多様性の国」カナダで過ごすうちに、英語はスキルではなく一つのツールであり、異なる言語や文化の中で育った人たちの架け橋なのだと実感した。その気づきから私は、英語を学ぶの

ではなく、英語で学びたいのだと
考えた。自分の進路を考えた時に、
外国語学部ではなく国際教養学
部を選んだのはそのためである。
大学について調べながら自分の目
指す方向性とすり合わせた結果、
私は早稲田大学の国際教養学部
を第一志望に選んだ。そこからは
TOEFL を受けたり、志望理由書
を書いたり、筆記試験の対策をし
たりと、一般受験をする友達とは
少し異なるが、同じように受験勉
強を経て無事合格することができ
た。

私が自分の受験の経験を通し
て伝えたいことは、やりたいことを

やるためにできることを増やそうと
いうことである。大学や学部を選
ぶ時、自分が将来やりたいことや
なりたい職業から逆算するのが良
いと良く言われる。それは一つの
道として正しいと思うし、自分には
つきりしたビジョンがある場合、一
番の近道になるだろう。けれど、す
べての人が中学生や高校生の段
階で自分の将来の夢はこれだ、と
決められるわけではないと思う。
少なくとも私はそうではなかった。
興味のある分野はあっても目指し
たい職業が一つに決められなかつ
た。特に文系の方は、行きたい学
部を見つけてもその学部で学ぶこ

とが一つの職業に直結していない場合が多いと思う。そんな時、自分の将来がはっきり見えなくて悩むかもしれない。

私が伝えたいことは、夢は変わっていいということと、選択肢を広げておくことが大切だということである。私が最終的に第一志望の大学に合格できたのは、ぼんやりと自分の心にあったなんとなく英語が好きだという気持ちを大切にして、英語を自分の得意なことに変えたからだと思う。やりたいことができてもそれが自分の苦手なことだったとき、挑戦するには勇気が要る。諦めてしまうかもしれないし、すぐ

に挫折してしまうかもしれない。けれど、自分にできることが多いほど、挑戦しやすくなるし上達も早いだろう。だから、今やりたいことややりたい職業が見つからない人も、できることをどんどん増やしてほしい。

もちろん、小さな頃からの夢がずっと変わらずに自分の心にあるというのもとても素敵なことだと思う。ただ、新しい体験を通して自分の知らなかった一面を知ったとき、夢は変わっても良いということだ。だから、あまり気負わずに今の自分が一番心を動かされることはなんなのかということを考えて見て

ほしい。たとえそこに劇的なエピソードがなくても、ほかと比べてなんとなく少し楽しそうかな、初めはそのくらいで良いと思う。あとで変わるかもしれないし、変わらないかもしれない。そのとき大切なことは、広い視野とできるだけ多くの選択肢を持っておけば、自分のやりたいことが見つかったとき、夢が変わったときに、役立つことがたくさんある。たとえ夢が変わらなかったとしても、一見関係のないように思えるその経験は必ずどこかで生かされるはずだ。この世に無駄な経験はないと私は思う。もし何を頑張れば良いのかわからない人がい

たら、とりあえず学校の勉強を頑張ることをおすすめする。当たり前のことだが、その当たり前を真面目に続ければ、必ず得られるものがあり、それがあなたの将来を切り開く鍵になるだろう。